

海外生活 エッセー

パリ事務所

アラカルトで織り成すフランスの結婚式事情

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐 山城 拓也 (沖縄県派遣)

人生の大きなイベントの一つである結婚式。今年9月に、パリ市内の展示場にて開催された、結婚式に関する展示会「le Salon du mariage」へ参加してきましたので、その内容についてお伝えします。

→ フランスの結婚式事情

日本では、結婚式の準備は一般的にホテル等の披露宴を挙げる場所で打ち合わせをしますが、フランスでは、会場、会場で振る舞う食事、装飾、結婚式来場者に対する記念品、二次会など、個別の専門業者それぞれと打ち合わせを行い、組み合わせていきます。そのため、日本と比べて極めて多くの選択肢があり、招待状一つ取っ

てもさまざまな種類が展示されており、挙式を控えているカップルは最初からどれにしようか悩んでしまうかもしれません。

そして、結婚式一番の注目の衣装、新婦のウエディングドレスは日本ではレンタルが主流ですが、フランスでは販売が主流です。約1,000ユーロ(約13万円)から販売

されており、ホワイトドレスが一般的のようです。新郎のタキシードも新婦のウエディングドレスと同様に約1,000ユーロ程度から販売されていました。



ランウェイが設置され、ウエディングドレスのファッションショーが行われていました。



披露宴の案内状のサンプル。夜通し楽しむプログラムになっています。

→ 会場の雰囲気

日本では、結婚式に関する展示会へ足を運ぶのは結婚する、あるいは婚約を考えているカップルですが、会場には親子(父親と娘)で来ている方や、両親だけで来ている方など、幅広い年齢層の来場がありました。また、相談ブースが数多く設置されており、結婚式や披露宴に関係する相談をはじめ、ハネムーンの相談についても行われており、結婚を取り巻く市場は非常に活発である、という印象を受けました。

私の派遣元である沖縄県では、沖縄の青い空と青い海を活用した「リゾートウエディング」が少しずつ知られるようになっており、東南アジアを中心とした海外からの渡航者が増えてきているところから、このような展示会が開催されていることから、今後、フランスをはじめとした欧州市場の開拓が期待できるものと考えられます。